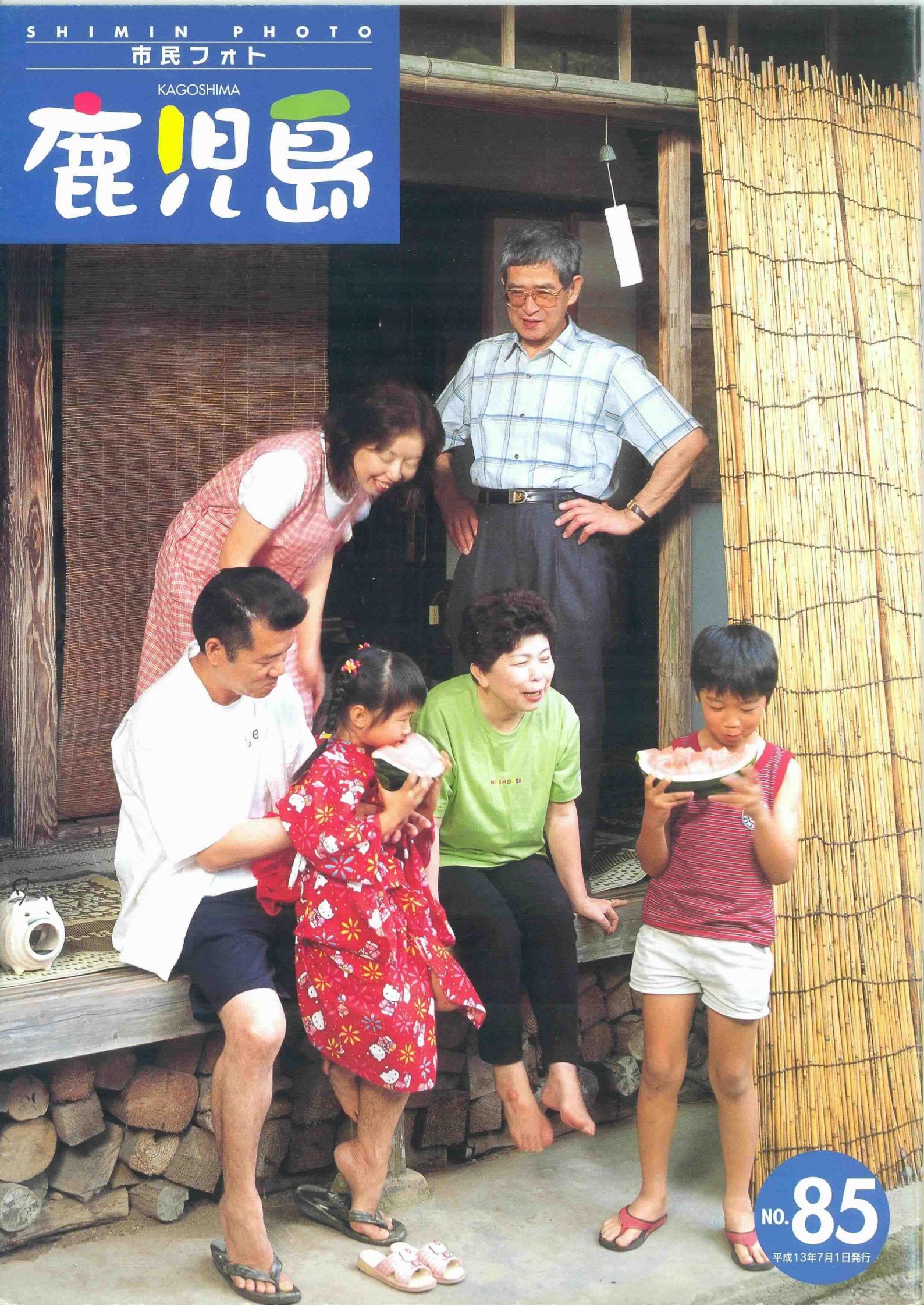


S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO. 85

平成13年7月1日発行

屋外のオブジェ

Outdoor Objet



——噴水彫刻——
【CONFLUENCE】
(合 流)
～永吉一丁目～

CONTENTS

【特集】あなたの夏はどんな夏

クローズアップ

廣津 秀治さん

ハロー鹿児島

シンシア・キースさん

カメラトピックス

14

学校探訪

緑丘中学校

私の好きな場所

樋渡 直竹さん

ふるさと再発見

磯珈琲館

あなたのフォトサロン

大社 正照さん

よかタイム

脇野 泰子さん

街角ウォッチング

西駅一番街

道具ものがたり

氷削機

館のたからもの

少年自然の家

わが町上空今むかし

新屋敷町付近

30

29

28

27

26

24

22

20

18

16

14

12

3

★表紙写真説明

夏の屋下がり。スイカをほおばる。時
折風が吹いて、風鈴の音が涼しげに響き
ます。

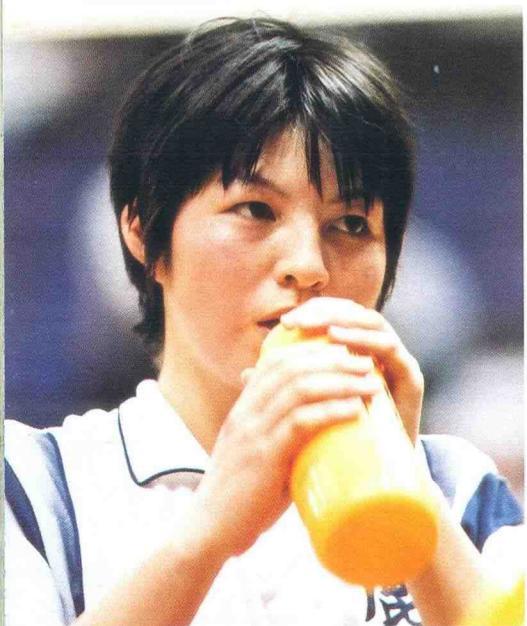
「あなたの夏は
どんな夏」

南国鹿児島に一番ふさわしい季節はやっぱり夏。照りつける太陽のもとでチャレンジしたり、涼を求めたり、家族のふれあいを深めたり。

あのころの夏、今年の夏、これから夏。みなさんそれぞれの夏はどんな夏でしょう。

「ひまわり(都市農業センター)」

チャレンジ



チームの仲間やコーチ、そして同級生・先輩・保護者の声援が、選手たちを勇気づけます。

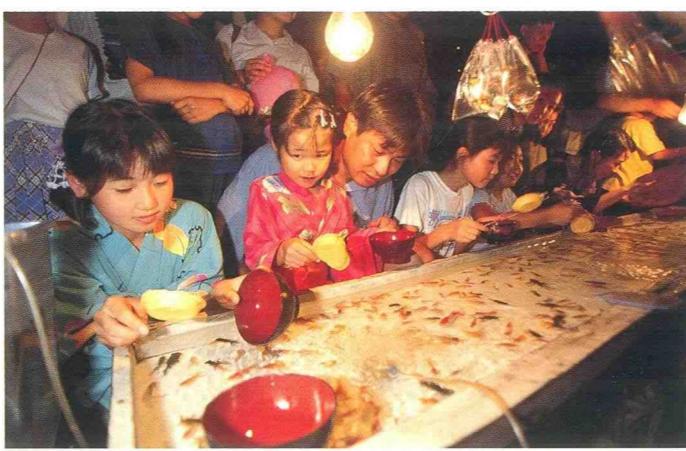
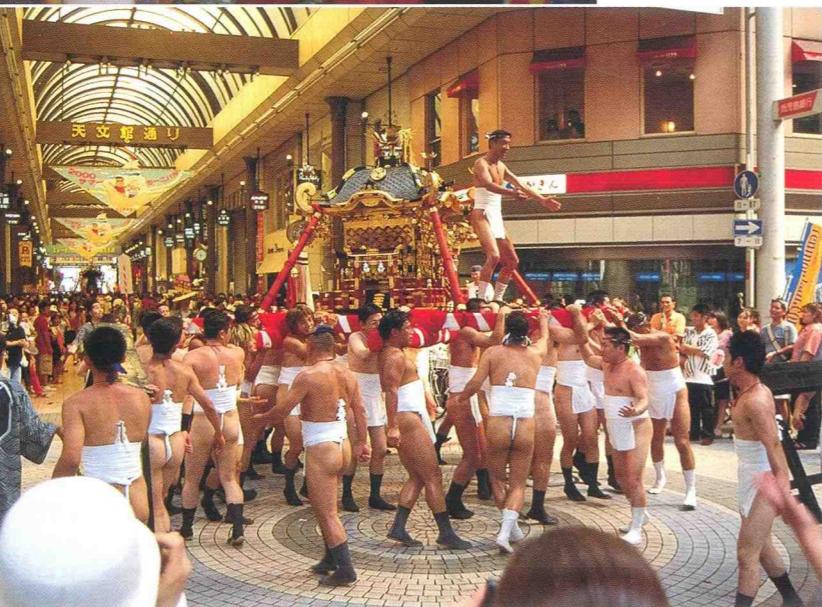
みんなが一緒になって、夏にチャレンジしています。「一生懸命」になることで、必ず何かが生まれるはず。懸命な彼らの姿が鹿児島の夏をまた熱くしてくれます。



目標に向かって挑戦する。頂点を目指す高校生たちや錦江湾の横断遠泳に挑む小学生たちのまなざしは、真剣そのものです。

捨て身のタックル、一瞬のタイミングで決めるボレー、苦しくても精一杯泳ぎ続ける姿。熱い夏、汗の夏がまだまだ続きます。





夏のまつりやイベントは、人の力によつてさらに熱氣あふれるものになります。伝行事を支え、伝える人と見物する人がいて「おぎおんさあ」がまつりとなり、金魚すくいに熱中する子どもたちの歓声が「六月燈」の賑わいを生みます。

県内外からの観光客が集まつて「か

ごしま錦江湾サマーナイト大花火大会」が九州で屈指のイベントとなり、地域のみんなが力を合わせて参加することで「盆踊り」が盛り上がるのです。

鹿児島の夏には、まつりやイベントもよく似合います。疫病退散を願う伝行事「おぎおんさあ」、7月になると毎晩のように市内のあちこちで催される「六月燈」、昨年夏に始まった「かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会」など、家族で、友だら同士で楽しめます。



▲昨年夏の大会には、全国でも珍しい三尺玉など1万3千発が打ち上げられ、観光客や市民などおよそ30万人で賑わった。

まつり・イベント

憩う・くつろぐ



健康の森公園



みなと大通り公園



緑に囲まれてキャンプをしたり、
海や公園で水に触れたり、涼を求めて
食事をしたりなど、市内には至るところに憩いやくつろぎの場があります。



少年自然の家



慈眼寺公園ソーメン流し



磯海水浴場



海さり公園



市長に聞く

小学校の夏休みに家族で過ごした一日が私の夏の思い出です。自家用車もまだ少なくて、バスに乗って天文館に出かけました。映画を見た後で食べた白熊のおいしさとこめかみがキーンとする冷たさを今でも覚えています。

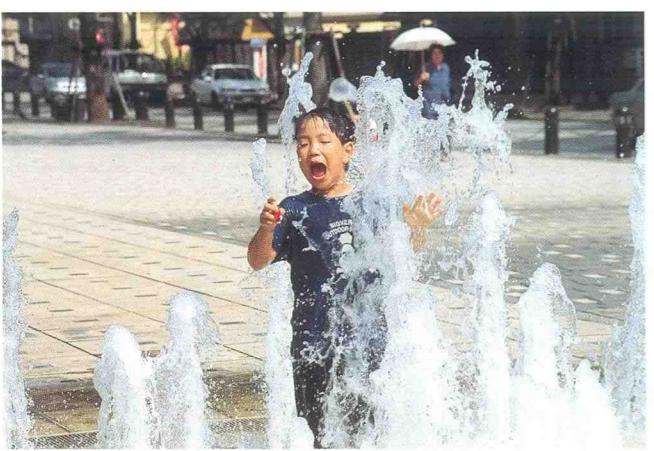
出したり、外食をしたりす
ることはめったになかった時
代でした。親が自分のために
わざわざ時間をつくってくれ
たんだなあと思うとありが
たかったですし、家族の絆を
感じられるひとときでもあ
りました。

夏を体で満喫してほしい

鹿児島は夏が一番似合う

の加勢など結構大変でしたよ。

けしたたくましい「自然児」でした。それから毎日のように家の手伝をしていましたね。田んぼの草取りを



まつ黒に日焼けした「自然見」

私の故郷は海の近くでしたので、夏になれば近所の友だちと海で泳ぐのが日課のようなものでしたね。照りつける真夏の太陽の下で1時間以上は泳ぐものでした。真っ黒に日焼けしたたくましい「自然児」でしたね。それから毎日のように家の手伝いをしていましたね。田んぼの草取り

ポーツでも何でも構わないと思いません。つまり、自分たちの力で何でも叶えられる、そんな自信をもつてもらいたい。それは勉強でもスポーツでも、何でもいい。自分たちの力で何でも叶えられる、そんな自信をもつてもらいたいのです。

夏がくれば思い出す

松原町 藤田 満さん



昭和34年ごろの与次郎ヶ浜。遠くに堤防と松林が見える。(鹿児島市100年の記録より)

私が小学校のころは、夏休みにいろいろな所に出かけました。与次郎ヶ浜にもよく行きましたね。堤防がずっと弓なりに続いていて、その上を友だちと歩いて行つたものです。まさしく白浜青松の美しい砂浜でした。

天保山の辺りに松林が残っていますが、当時はその十倍くらいあつたように感じます。

た。松林の中は真夏でも吹く風が涼しかつたのを覚えています。海で泳いだり、釣りをしたりと自然がそのまま遊び場になつていましたね。毎日が冒険の連続でしたが、とにかく近所の友だちと楽しく遊んだことが記憶に残っています。



シンシア・キースさん
【オーストラリア出身】

**HELLO
KAGOSHIMA**
ハロー鹿児島

シンシアさんの好きな言葉

- Don't give up! あきらめないで
- Hang in there! がんばってね
- Thank you! ありがとう
- I love you! 大好き! 愛してる

新屋敷町のビル内にあるシンシアさんのお店「ジェリービーンズ」。店内には、ユニークな英語教材やキャラクターグッズなどが色鮮やかに並べられている。

「学校の先生や小さい子どもがいるお母さんたちがよく来ますよ」。

シンシアさんはパース市出身。12歳から日本語を学び始めた。「漢字一文字で意味を持つということにとても引かれました」。

彼女が中学3年生の時に、パース市を訪れた鹿児島の短大生をホストファミリーとして受け入れる。そのおかげで鹿児島という土地に親近感を持つようになった。

最初に日本に来たのは21歳の時。東京、京都などを旅しながら鹿児島まで来る予定だったのだが、福岡で電車の乗り換えを間違えた。予定の時間よりかなり遅れて西駅に到着。

そのとき、「お、シンシア元気。遅かつたじやない」と友だちの気取らない笑顔が迎えてくれた。すっかり心細くなっていた彼女は、思わずほつと/or>する。

「ここだ」と直感

二度目に訪れた時には、仙巣園から桜島と錦江湾を眺めた。普段泣かないシンシアさんが思わず涙をこぼしてしまったという。

「ここは穏やかでいいところだ。落ち着いて人生を過ごすことができるだろう」。

そして、「よし鹿児島に住もう」と決心した。

再度帰国。早速移住のための準備を進め、9年前に鹿児島に戻る。その後、8・6水害に遭った。

「オーストラリアから持ってきたものは手荷物以外すべてパ一」。しかも、肋骨を折るという大けがまで負う。

「一度オーストラリアに帰国しましたが、父は私が日本に戻ることを反対しました。そんな目にあつてまで日本に行くことはないつてね。でも、今戻らなければ二度と行くことはなくなるだろう、私には友だちも仕事も命もある。そういうつて親を説得しました。

ゼロからのスタートでがんば

れ』と神様に言われているような気がしました」。

大手英語教室、幼稚園専属の英語講師の経験の後、独立して英語教室、教材店を立ちあげた。「英語の楽しさを子どもたちに伝えたい」というのがシンシアさんの信念。そのほかにも、短期大学、看護学校などで講師と活躍の場は尽きない。

「どんなに忙しくても、好きなものに囲まれているから毎日が楽しいんですよ」。

もつと英語を楽しく

シンシアさんのユニークな授業に、子どもたちは興味津々だ。



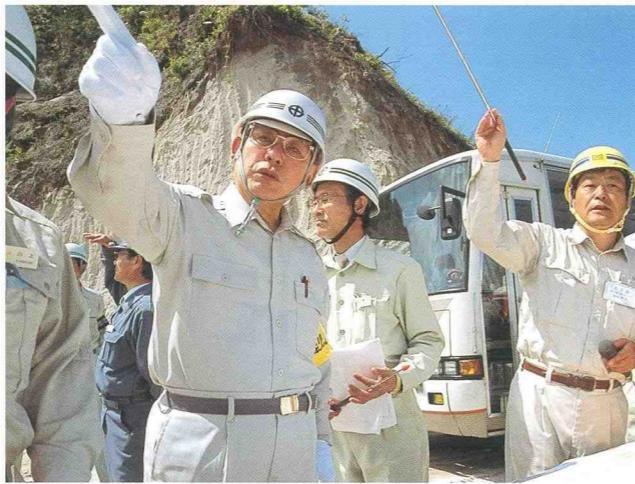
カメラトピックス



ばら
(錦江湾公園)



5月11日
第11回椋鳩十児童文学賞授賞式
安東みきえ氏の作品「天のシーネー」が、52点の応募の中から選ばれ受賞しました。



5月9日 防災点検
梅雨の時期を前に災害の発生を未然に防止するため、市街地班と桜島班に分かれて災害危険個所の点検を行いました。



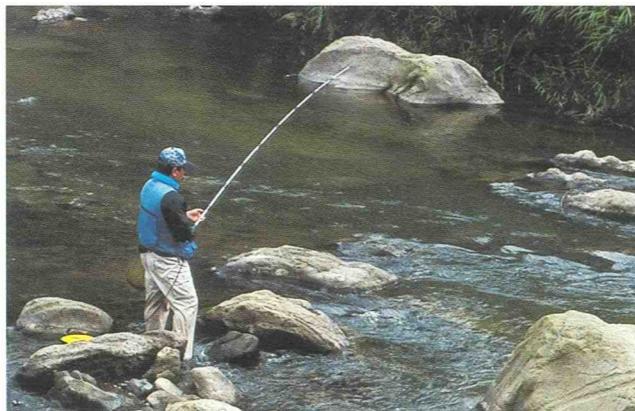
5月20日 第4回畜産フェスタ
都市農業センターで行われた恒例のイベントに今年も家族連れがどっと押し寄せました。乗馬体験やウナギのつかみ取りなど、子どもの歓声があちこちで聞かれました。



5月20日
海づくり公園利用者50万人達成記念セレモニー
小松原一丁目の生駒重雄さんが50万人目。当日はお父さんと妹さんの3人で来園し、思わぬプレゼントにびっくりしていました。



6月3日 第13回花しょうぶまつり
平川動物公園内の菖蒲園で、今年も花しょうぶまつりが開催されました。苗のプレゼントや写真コンテストなどがありました。



6月1日 甲突川のアユ漁解禁
待ちに待った多くの太公望たちが、日の出からアユ釣りを楽しんでいました。



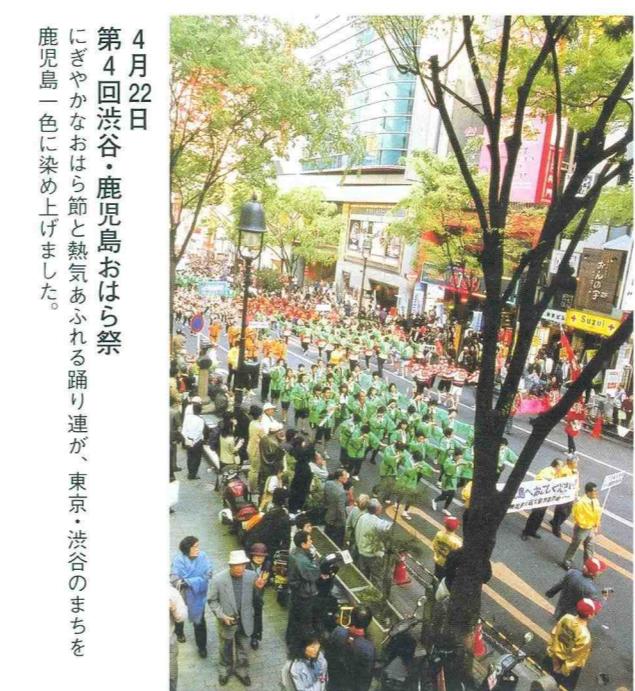
4月20日
消防総合訓練研修センター・郡元分遣隊庁舎落成式
消防士の総合訓練研修ができる施設が新栄町に完成し、郡元分遣隊も併設されました。



4月10日 ソフトプラザかごしま会館記念式典
情報関連産業の育成や支援のための拠点施設が名山町に完成しました。IT(情報技術)時代に対応した地上5階建ての建物です。



さくら(甲突川河畔)



4月22日
第4回渋谷・鹿児島おはら祭
にぎやかなおはら節と熱氣あふれる踊り連が、東京・渋谷のまちを鹿児島一色に染め上げました。

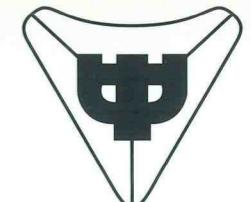


5月6日
維新ふるさと館入館者100万人到達記念セレモニー
宮崎市から3世代6人で来館した猪野千恵子さんが100万人目となりました。



4月11日 動物管理事務所開所式
田上町の広木公園近くに動物公園管理事務所が開所。屋外に運動場を備えた子犬舎などもできました。

緑丘中学校

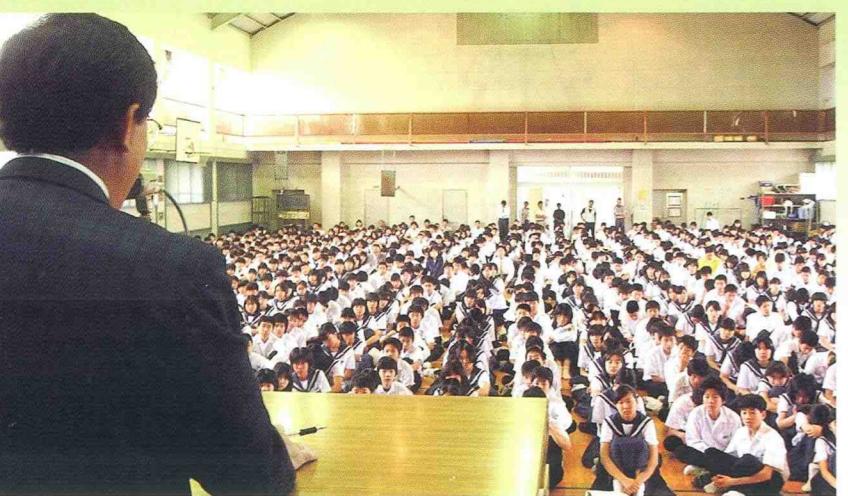


美 時 礼 苦
ときを守る
苦難に勝つ
ひびくあいさつ
きれいな学校

<校訓>
力 行 友 真 愛 実



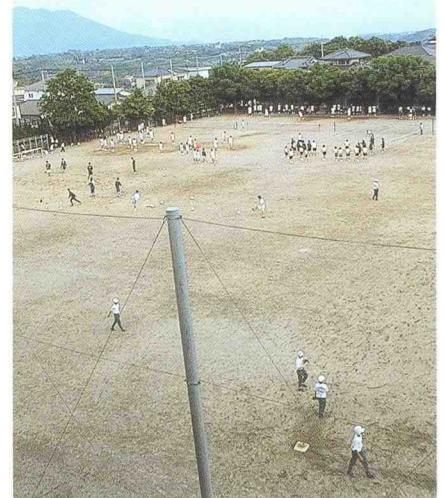
開校 昭和49年 生徒数 826人(平成13年6月1日現在)



▲生徒でぎっしりの全校朝会。一時期より減ったとはいえ、3学年で22クラスもある。



▼放課後の校庭では、サッカー、野球、陸上、バレーボール、ソフトテニスの部活動が行われている。



▲学校は標高190mの高台にあり、地形は起伏に富み緑は豊か。谷を隔てた花野団地の生徒は、保護者が委託するスクールバスで通う。



▲1年生の英語の授業。会話中心で楽しく進む。



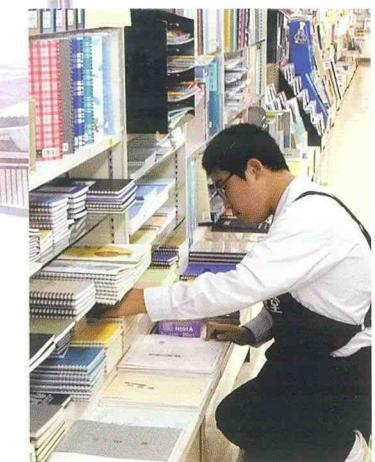
◀クラス対抗の合唱コンクールに向け、音楽の授業も熱がこもる。



◀合唱やスポーツは、伝統的に輝かしい実績をあげている。



▼職場体験学習は、自動車修理、病院、ファミリーレストランなど60業種の協力を得て行っている。



▶校舎外階段の軒下に毎年営巣するツバメ。

一期一会、ファインダーを通して 人の営みを見つめる



そのためには、リアリティーが大切だと思っています。だから、演出するのではなく、本当に人が現れるのをずっと待ちます。2~3時間待つこともありますよ。

この田の神さまも雪が降る冬の日、車の中で人が来るのをずっと待って撮りました。ちょうどいい具合に、地元のおばあちゃんが腰をかがめて向こうから歩いてきたもんですから、車の中から飛び出してシャッターを切ったんですよ。

写真を撮るようになつて、何気ない風景を深く見つめるようになりました。

そのためには、リアリティーが大切だと思っています。だから、演出するのではなく、本当に人が現れるのをずっと待ちます。2~3時間待つこともありますよ。

この田の神さまも雪が降る冬の日、車の中で人が来るのをずっと待って撮りました。ちょうどいい具合に、地元のおばあちゃんが腰をかがめて向こうから歩いてきたもんですから、車の中から飛び出してシャッターを切ったんですよ。

【取材×モ】

公民館の写真講座の講師もつとめる樋渡さんは、「写真はテクニックではなく、感性が大切だ」と説く。

今後も、ローカル線の写真を撮り続けるほか、「黒潮街道」をテーマに、漁村に残る日本の原風景を撮つていきたい。つづりと笑いかける田の神さまのように穏やかな語り口の樋渡さん。その心の内に熱い思いを感じた。

が、30歳になったとき、何か他のことに取り組もうと思い、一眼レフのカメラを購入したのがきっかけです。

カメラを買って、最初に撮り始めたのが、郷愁残るローカル線の写真でした。南薩線や山野線などは、今では廃線となっていますが、廃線後もぽんと残された線路や駅は、消えていくものの寂しさやはかなさを感じさせますね。

その後、五穀豊穣を願う田の神さまを撮るようになりました。

私が撮る写真の多くには人が写っています。物だけではなく、人や看板などが風景の中に入ることで、その風土や時代が写し出されるからです。

風景自体の美しさだけではなく、そこからにじみ出る人の営みを表現したいですね。

同じ風景でも、次の瞬間には別の表情を見せます。

チャンスをねらい、タイミングを待つといふことにおいて、写真を撮ることには一期一会という言葉がぴたりですね。



写真家
樋渡 直竹さん

「これは田んぼが広がり、それを見守るよう田の神さまがたたずんでいるところです。田の神さまといっしょに桜島を望むこともできる珍しい場所なんですよ。こここの風景は、私が撮った写真のうちでも、特に印象に残っていますね。」

今から27年前、写真を撮り始めました。

それまではアーチェリーをやっていました。



中山町滝之下



和の好きな場所



My favorite Place

喫茶店に姿を変えて 21世紀も生きる明治建築



明治みやげまつり

平成13年、5月27日 Tar. 88

戦後は島津興業と社名を変更したあとの本社社屋として会社はこれを再利用、というよりは会社の歴史を伝える建造物として永吉町に保存されていたが、昭和六十一年に磯の現位置に移築された。珈琲館として、観光客や市民に親しまれるようになつたのは、このあとのことである。これこそ、まさにセンチュリーハウスということができる。

この喫茶店は、京都文化博物館に併置して保存されている、重要文化財の旧日本銀行京都支店の金庫室を活用したもので、チーズケーキ付きとはい、三人分の支払として出された五千円札が、百円硬貨数枚の釣り銭となつて返ってきたのにはいささか驚かされた。

された。その後、大正十二年薩摩興業の社屋として鹿児島市永吉町に移築されたが、昭和二十年の大空襲にも戦災に遭わなかつたというまことに幸運な建物である。

この見事な付加価値商法にはすつかり感服したのだが、それはなにも京都に限つたことではなかつたようだ。

【登録文化財とは】

過去の文化遺産は、これまで重要な文化財や国宝など、厳密な保存のための指定文化財の制度によって、保護されてきた。そのうち、建造物について、外觀を大きく変えなければ、内部を改裝し活用することができるのが、登録文化財制度の特徴である。

正され、そのなかに、近代構造物に対する登録制度というのが新たに導入された。この制度は、従来からの指定文化財と違つて、保全が徹底できないくらいはあるものの、日毎に貴重な建造物が消滅していく都市にあっては、相応の効果をあげるものと期待してよい。

鹿児島市でも、いち早くこの制度を採用したが、その第一回の登録にこの磯珈琲館が選ばれたのは当然だつた。

ところで、建築の寿命ということだが、これにはいろいろな考え方がある。それは、使えるかどうかという判断が極めて主観的だからである。センチュリーハウスというのは、そんな風潮のなかで、建物自体のはかなうだ。住宅まで消耗品あつかいにされている。

磯の珈琲館として知られるこの建物が建築されたのも明治三十七年といいうのだから、こちらもかれこれ百年が経つている。日露の風雲急を告げる時期だから、勿論コーヒー・ショップなどであつたはずはない。当時、串木野村にあつた島津家の芹ヶ野金山の現地事務所として建築

では、それまでの住宅というのは、一体何年使えたのかということになると、最近ではその道の専門家でもいささか困るのだろうが、この頃の常識的な線でいうと、住宅金融公庫の償還期間を目安とした、木造十八年、RC造三十五年というのがあった。

最近では建物が少しでも古くなると、世間ではしゃにむに廃棄処分のほうに持つて行つてしまうので、勿体無いと思うものまで処分してしまうようだ。住宅まで消耗品あつかいにされている。

い抵抗にも感じられるのだが、これまた、この惹句同様、それからまだ二十年と経つていないのに、当の入居者たちですら、この先八十年も使おうという人は、いまや、絶無と言つていいのかも知れない。

磯 助 球 館

文／画 第一工業大学教授

田良島 昭

ふるさと
再発見

一頃、公営の分譲住宅をセンチュリーハウスという歌い文句で、壳り出したことがあった。この百年間使われるという意味の惹句は、當時としてはかなり魅力的なものだつたし、事実、評判も決して悪いものではなかつたようだ。



写真 大社 正照さん



「スタート」

照りつける

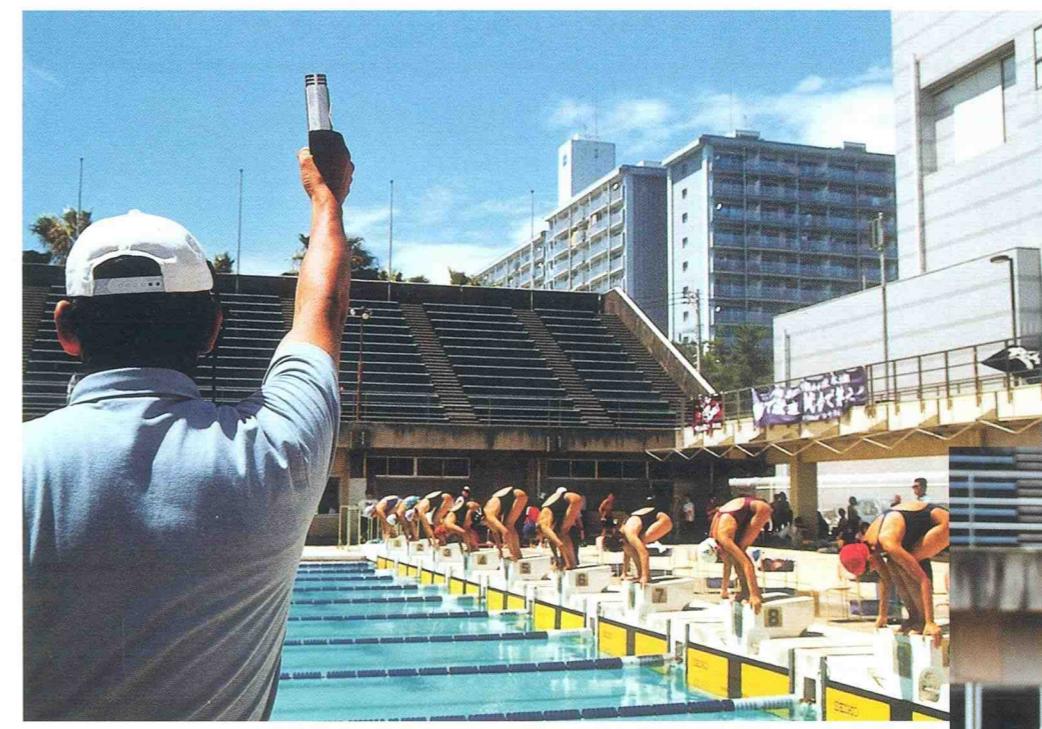
夏の日差し。

静かな闘志が

爆発する瞬間、

場内が緊張に

包まれます。





フラメンコ (スペイン舞踊)

脇野 泰子さん

ご主人が入院していた時も、看護しながら練習には欠かさず通ったという脇野さん。「フラメンコという楽しみがあったから、多少のことは苦にならなかつたんです。体の続く限り踊りたい」。

よかタイム 5つの質問

Q1 始めたきっかけは?

「健康のため」ですが、実はフリルのついたスカートを着てみたいという願望もありました。昨年の4月から始めました。

Q2 踊る時、一番気を付けていることは?

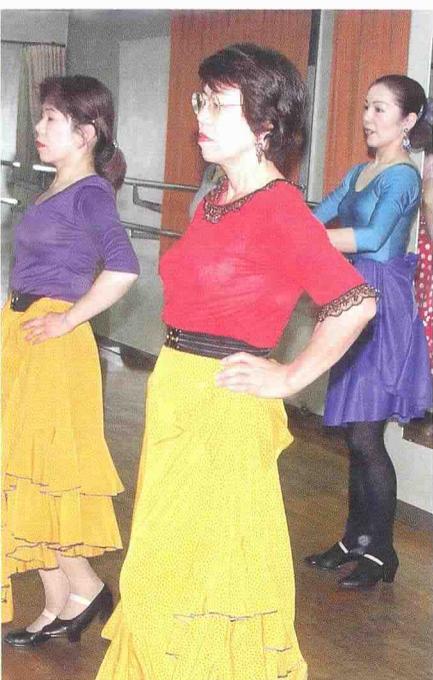
視線の位置です。視線が下向きになると、姿勢も悪くなってしまいます。

Q5 これから の目標は?

8月の発表会に向けて頑張ります。夢は、スペインに行つて、本物を体感してくることですね。

Q3 上達具合は?

まだまだですが、5月に友だちが勤めている病院で一緒に踊りました。患者さんたちも、華やかな衣装と音楽が新鮮だったみたいで、手拍子を送ってくれました。



Q4 フラメンコの魅力は?

情熱的な踊りと音楽で心が高揚するところです。明るく前向きになりますね。

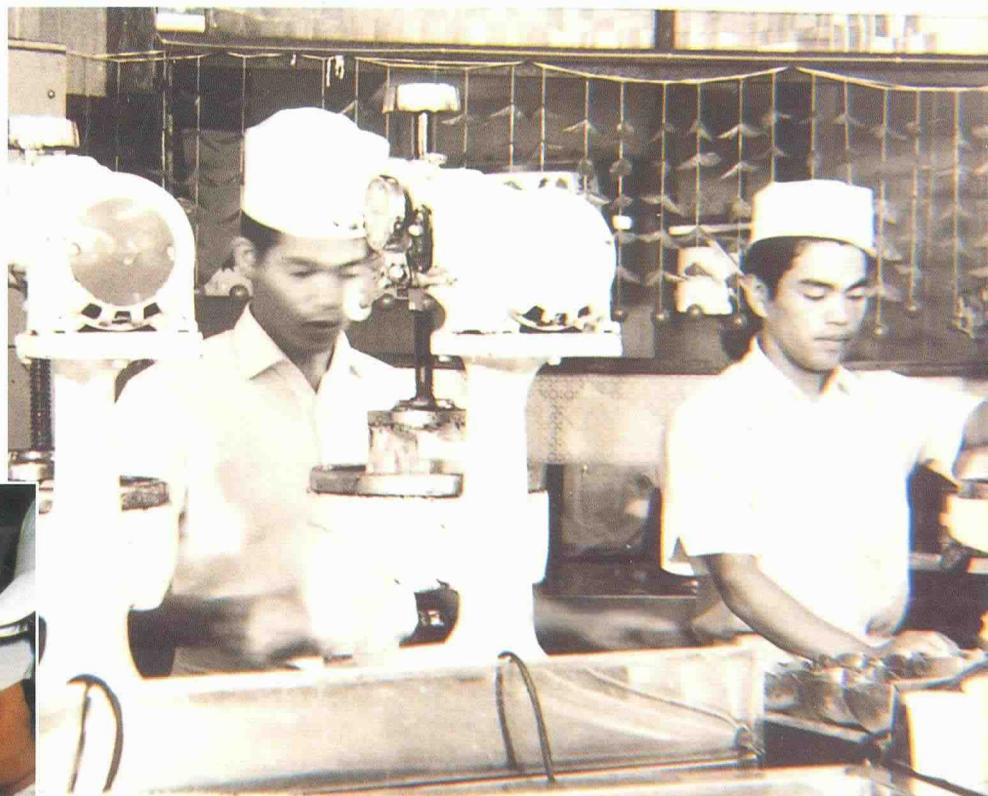
街角ウォッチング

～西駅一番街～



氷削機

資料提供：久保 誠氏



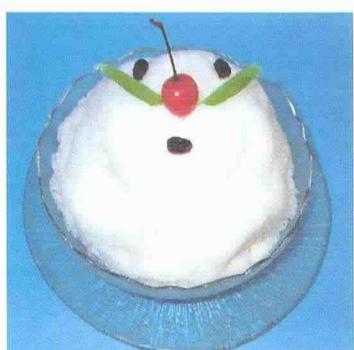
▲昭和30年ごろの氷削機

時代変わって、今。
氷削機は6代目となりました。
12台ある氷削機は、一日1台で千
食以上の白熊をつくり出し、今も
変わらず、涼を求めるお客様を
楽しませてくれます。



▲現在の氷削機

▲昭和24年ごろの白熊



南国かごしまに「白熊」が誕生
したのは、昭和24年。
当時は、砂糖が不足している
時代で、フルーツなどの具もシ
ンプル。氷も枕崎市や熊本の人
吉市まで出かけて手に入れてい
ました。

冷たい白熊をつくるのは、汗
だくの作業。昭和28年までの氷
削機は手まわしで、専門の職人

がいました。

その後、電気で動く氷削機が
5台登場しました。

うどん一杯30円の時代に、白
熊は百円。しかし、クーラーもな
いそのころ、暑い夏に涼しさを
求めてお客様はひつきりなり
し。氷削機はオーバーヒートで
火を噴くこともありました。

鹿児島市立少年自然の家

ゲル ～モンゴルからの贈り物～



平成12年5月、モンゴル国ダルハンブル県知事の来市に伴い、親善友好の印として贈られました。

「ゲル」はモンゴルの遊牧民の暮らす住居です。通常、数軒建ち並び、これを一軒の住宅とし「イル」と呼んだりします。モンゴルの草原で暮らす遊牧民にとって、家族団らんのスペースであり、家族の団結の象徴ともなっています。

羊や馬、やぎの毛織りが中に張ってあり、外

側は布地でできています。くぎは1本も使っていません。組み立て、持ち運びが可能で、大草原を移動して生活する遊牧民ならではのものです。

乾燥したモンゴルの気候には適していますが、湿気の多い日本の気候では、すぐにカビが生えてしまうため、現在は湿度調節のできる屋内で展示しています。

(市立少年自然の家 城ヶ崎修二)



現在

新屋敷町付近

右は今から40年前の写真です。中央の電車通りのロータリーはなくなりましたが、戦災復興事業で整備された大通りと甲突川の流れは今も残っています。

当時からこの辺りには公共の建物がありました。現在の中央警察署の場所には当時市内に一つしかなかった警察署、その隣の住宅公社ビルの場所には中央保健所がありました。市立病院も昔から同じ場所に建っています。これらを始め、ほとんどが木造の建物ですね。

現在、まちの様相はすっかり変わり、高層ビルが立ち並びます。写真上には銀色のかごしま水族館、三角屋根の倉庫も見えます。



昭和36年

わが町上空 今むかし

市民フォト

鹿兒島

NO.85

編集発行／鹿兒島市広報課

鹿兒島市山下町11の1

電話 216-1133

印刷・レイアウト／海上印刷株式会社



R100

この広報誌は、古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。